

平成18年6月27日

有識者各位

北海道妹背牛商業高等学校教育振興協議会  
会長(妹背牛町長)加藤 榮一

妹背牛町議会  
議長石原 敏之

妹背牛町教育委員会  
委員長高田 喜一郎

北海道妹背牛商業高等学校PTA  
会長水本 雅英

北海道妹背牛商業高等学校バレーボール部父母の会  
会長小山 内豊

北海道妹背牛商業高等学校同窓会  
会長古川 隆夫

## 北海道妹背牛商業高等学校の存続を求める署名活動 について(お願い)

平素から妹背牛商業高等学校の教育活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、北海道教育委員会は、高校教育推進検討会議から「本道の高校教育のあるべき姿と、それを踏まえた高校適正配置のあり方について」の答申を元に、「新たな高校教育に関する指針(素案)」を示しました。その内容は、高校の適正規模を1学年あたり4学級から8学級とし、1学年あたり3学級以下の小規模校の再編整備を行うというものであります。

すでに新聞報道等でご存じのとおり、北海道教育委員会は道議会文教委員会に平成19年度公立高等学校適正配置計画案を提示、これにより妹背牛商業高等学校が平成19年度募集停止となる方向で協議中であります。

北海道妹背牛商業高等学校は、昭和24年に定時制課程の「普通科・農業科・家庭科」の3科をもつ村立高校として開校、本年58年目を迎える輝かしい歴史と伝統に培われた学校であります。昭和44年には北海道への移管により「北海道妹背牛商業高等学校」として再スタートを

切り、昭和53年春には全国高等学校バレーボール選抜優勝大会において女子バレーボール部が全国制覇という快挙を成し遂げ、本町の名はもとより道産子の持つ底力を全国に知らしめました。この学舎から巣立った4,501名もの卒業生は、現在町内はもとより全国各地の様々な分野において活躍し、社会の一翼を担っております。

北海道妹背牛商業高等学校は「道立高校」ではありますが、すでに妹背牛町で半世紀以上もの歴史を刻み、現在では本町はもとより地域社会にしっかりと根を降ろしております。また、学区にとらわれない商業科と相まって、全道各地からバレーボールを目指す生徒を受け入れ、また近隣の大学との高大連携教育を取り入れるなど、妹背牛商業高等学校ならではの特質を生かした教育活動を通して、高い進学率・就職率を誇る重要な意味をもった学校と認識しております。

このことから妹背牛町と致しましては、妹背牛商業高等学校振興協議会を通し就学援助や教材整備などの支援、女子バレーボール部後援会を通して寮の設置や遠征費用の助成など、様々な面で支援を行ってきた所であります。

万一、募集停止案が現実のものとなりますと、単に道立の学校がなくなるという事に留まらず、教職員及び家族の方々が町を去り、税収面や町内消費の減少による経済的損失、さらに幾多の先輩達が築き上げてきた栄えある伝統に培われた「まちの文化」が消失する事にもなり、本町にとって大きな痛手となります。

私たちは、「平成19年度公立高等学校適正配置計画案」の再考を要望するとともに、全道一律な統廃合に反対し、北海道妹背牛商業高等学校の存続を堅持されるよう強く要請するものであります。

つきましては、別紙の存続要請署名簿をダウンロードし、本主旨をご理解頂いた上で、署名活動にご協力をお願いいたします。(7月19日必着)

存続要請署名簿のお問合せ及び送付先については、下記の協議会までお願いいたします。

送付先

北海道妹背牛商業高等学校教育振興協議会

〒079-0501 北海道雨竜郡妹背牛町 5208 番地 1

(妹背牛町教育委員会内)

電話(0164)32-2525 FAX(0164)32-2828

